



全国棚田(千枚田)連絡協議会

棚田ライターズ

第46号 2007.7.15
(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきゃらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078
<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2006（主催：全国水土里ネット・都道府県水土里ネット）
ハマルタカフレーレス賞／「引佐町久留女木棚田の絵」齋藤夏姫（静岡県浜松市立三ヶ日東小学校3年）



△王子製紙賞／「井仁の棚田」高橋良枝（広島県広島市立矢賀小学校4年）

都会では手に入れられない、豊かさと出会う



俳優 永島敏行

Message

私は二ヶ月に一度程NHKの「ゆうどきネットワーク」という番組で漬物紀行を担当させてもらって各地を訪ねている。何故漬物なのかというと、子供の頃の家庭の味はと聞かれたとき若い頃は魚料理を答えていたが、父母が亡くなつてもう二度と食べるこの出来ない子供の頃の家庭の味はと、改めて体に聴いてみるとおこうこ「お新香」だと舌が答えた。実家は千葉で旅館を営んでいたので美味しい魚料理などを父母「旅館は共働き」が作ってくれたが、毎日毎食、食卓にのぼって飽きずに食べられたのがおこだつた。

昔は季節感なくいろいろな野菜が出回っている現在と違つて、冬なら白菜の漬物、夏ならきゅうりなどと季節ごとに同じ漬物が毎日食卓にのぼつた。

母が素手で漬けてくれ、永島家に住み着いている乳酸菌が発酵して作られた正に家庭の味だったからだと思う。今、その漬物が多くの食卓から忘れ



他のおかずが毎日続くと飽かるがおこなは飽きなかつたのは何故か、美味しかつたのは勿論、ご飯という主役を立てる名わき役でもあつたし、父

私が訪問したお宅の夕食はイタドリの炒め物や煮つけとそこで取れた山菜や野菜中心の食事、ご家族は三世代が一緒に暮らし子供たちが夕飯の支度を手伝いとても暖かな食事風景。そこで驚いたのは夕飯のおかずには使われた食材のうち買ったのはイカと塩と醤油だけ。後の米、味噌、野菜、山菜、そしてお茶までが自給自足。大家族で賑やかな食事は、何もかも買わなければ生きていゆけない都会で暮らしている私にとってお腹がいっぱいになるより胸がいっぱいになる食事だった。

レストランも、ファーストフードも、コンビニ「ここでとれない肉、魚などの生鮮食品は一日おきに来る移動販売車から買う。」もなく、都会の人間の価値観からしたら不便と決めてしまうこの地には、都会では絶対、手に入れない豊かさがあつた。

られているような氣がして、漬物と家族、地域のつながりを探つてみたかった。最初に訪ねたのは高知県大豊町、山また山の四国山脈の中にある棚田と段々畑が続いている美しい町。ここでいろいろな山菜を塩蔵にして料理に使つているが特にイタドリという山菜がいろいろな料理に使われていた。

私が訪問したお宅の夕食はイタドリ

特集

安心安全を
追求する

棚田地域でがんばる営農組織

グループ

有限
会社

山羊も兔も猪もいて

島根県吉賀町

有限会社サジキアグリサービス 茅原 久子

うさぎ
うさぎ

じのじ

山羊

うさぎ

島根県吉賀町

——

有限会社サジキアグリサービス



我が島根県吉賀町は、中国山地添い山口県境に位置し、ダムを持たない一級河川高津川上流域にわずかな平野を持つ自然豊かな農村です。有限会社サジキアグリサービスは、その平野部棧敷集落に事業所を構えています。

農業で生計を経てた時代から、会社に勤め、日曜農業の時代に移行した昭和50年代初め、国が減反政策を進めるなか、作業受託を中心としたグループを結成しました。やがて集落営農へ移行ましたが、高齢化と後継者不足により、会員の減少が続きました。そんななか、平成13年、棧敷集落内農家2戸で特定農業法人有限会社サジキアグリサービスを立ち上げ、それまでの作業受託は法人が引き継ぎました。

法人設立後も新たに農用地利用権設定を結び、耕作面積も年々増えてきました。山あいのほ場も整備され、大きい田で20aあるものもありますが、依然棚田状態で不揃いの田に変わりはなく、作業効率はあまり良いとはいえない。また、畔周りや側面は予想外に広く長くそして高く、草刈も危険を伴ないます。さらに、支流沿いに集落が点在し、ほ場間の移動

は時間と経費を費やし、猪・猿・狸の被害も続出しています。大平野のほ場を持つ特定農業法人に比べ、私たちのような中山間地域では随分とロスが多いのも否めません。

とはいっても、法人として雇用を含めた5名が年間を通じて働くには充分な

作付計画も必要です。平成19年は作業受託96戸・延面積90haを予定し、自作地23haは水稻15ha・大豆2.3ha・小麦3.4ha・菜種1ha・そば4.6ha・飼料稲1ha・そば高嶺ルビー4haを計画しています。そのうち水稻・そば・小麦は島根県エコロジー農産物栽培認定を受け、農薬の使用を減らし、環境に負荷をかけない農業に努めています。

小麦「農林61号」は小麦粉として販売しておりますが、今回、栽培開始から10年、長年の夢であった小麦焼酎「田舎もん」が完成しました。酒税法の関係で自己販売は叶いませんでしたが、自分たちで作った小麦と米を使い、益田市にある酒造場で作つてもらうことができました。できます。また、黒米・白蕎麦・高嶺

ルビー（赤蕎麦）・菜種などは発芽から実りへの過程も楽しみのひとつであり、収穫物の一部は、JA直・道の駅・青空市に出荷しています。自社商品のラベルに随時登場する犬1匹・山羊2頭・兎8羽・鶏17羽も大切な仲間です。

なお、平成18年度は（財）ふるさと島根定住財団「若いしまね人のための産業体験事業」で研修生を1年間受け入れました。さらに、農大生や産業高校生の研修受け入れ、地元中学生の体験学習受け入れも随時行っており、これもまた楽しみのひとつです。

今後の課題としては、①山あいほ場や未整備田の再契約の再考、②作付の団地化、③誇りある農産物の生産、④自社原料の活用＝加工部門の立ち上げです。しかししながら、食料難の時代はいつくるのだろうか？近未来、科学的生産の食べ物と呼ぶ物がスーパーの食料品コーナーを充たし、農地不要の時代になるのではないか？中間地域の狭隘な水田は切り捨てられるのは……等々の不安はあるものの、次世代へ夢の橋を架けたいと願いつつ、青田道を行くこのごろ

生産組合

合鴨米から合鴨カレーまで

日之影町役場企画開発課 主事 関 雅人

合鴨とは、小型のアヒルとマガモを交配して作り出した家禽です。大きさはアヒルとマガモの中間で、常に集団で行動する事やメスがよく鳴く事、歩き方がアヒルに似ている事などが特徴です。

近年、無農薬で安全な米を志向する消費者の要求が高まり、水稻栽培において「合鴨農法」が注目されています。これは、合鴨のヒナを水田に放し飼いにして、その旺盛な食欲と雑食性で、水田の雑草や害虫などを食べて除去するため、農薬を使わずに稲を育てることができる無農薬農法です。その上、合鴨の糞や水田内の搅拌効果で稲の生育が促進され、最終的には合鴨を食肉にできるため、無駄のない利用法といえます。

このように、合鴨農法にはメリットがある山あり、合鴨と一緒に稲を育てていく農法で作られたお米を合鴨米といいます。

1kgと高く、反収は慣行米の1割減となっています。生産組合は、合鴨米や古代米の生産だけではなく、用途のなくなつた合鴨の加工販売にも取り組んでいます。既に合鴨を加工して製造した「合鴨カレー」の開発に成功しており、1パック1人前550円で、地元の道の駅や宮崎市や福岡市の量販店でも販売されています。

このように、合鴨を活用した取り組みを行なうとともに、今後継続的に展開していくためには、生産者の増加や生産技術の向上に努めなければなりません。したがって、今後の展開とともに、これらの課題克服と併せ生産米のブランド確立の方策を検討するとともに、生産米および合鴨を活用した特產品の開発に取り組み、合鴨米生産組合という組織の生産活動を活性化させ、新たな農業に対する魅力を発信し続けます。

農業協議会

熊本県山都町

やまとちょう

山都町役場農林振興課農政係 伊田 隆信

山都町は、熊本県の東部に位置し、阿蘇南外輪山から九州山地の脊梁までを圈域とし、標高は300～900mにあり、面積は全体で544・83km²を有し地形的な変化に富んでいます。

本町は、恵まれた気象条件と変化に富んだ地形を生かして、多彩な農業生産が展開され、特に米を中心に高冷地野菜や茶、畜産などの高品質の農産物が生産されています。

地域の実態に応じた生産基盤の整備をはじめ、高品質・低コストによる売れる農産物づくりを推進するとともに、土づくりを基本とした自然環境型農業を進めています。

有機農産物フェアでは、田植え、稻刈りを体験した都市の小学校、都市住民を招待し、安心安全な農産物の販売、おにぎり・だご汁等の販売を行い、竹細工・藁細工などの実演を行っています。抽選で野菜等もプレゼントしています。

安全な農産物を生産するとともに、下流にきれいな水を流すため、自分たちが環境を守る取り組みが重要であることから地域の水や環境に配慮した有機農産物の生産及び販売に取り組んでいます。

具体的には、土づくりから始まり、アガモ農法、鯉農法などに取り組み省力化を図るとともに、より安全な米の栽培技術を確立しました。化学農薬・化学肥料・化学合成資材を使わず堆肥などを用い、栽培の作物の種類を毎年増やしています。



山都町有機農業協議会は、平成15年3月28日に旧矢部町時代に約130名の会員により発足しました。はこべ会・愛農会・こここの会・JA矢部有機農業研究会・JA矢部無農薬茶部会・御岳会・わらびの会・土のめぐみの会・カタクリの会・本田農園・個人会員により構成されています。平成17年2月の合併後、旧清

和村、旧蘇陽町の会員も徐々に増えました。

協議会での活動は、無農薬、有機農業生産者間の交流をはかり、有機農業経営の確立を目指しながら、有機農法を普及し、食に携わる人や消費者の人たちとの距離を近づけていく事を目的とし、有機農産物フェア、都市の小学校との田植え・稻刈り交流、都市住民との交流等を行っています。

農産物フェア、都市の小学校との田植え・稻刈り交流、都市住民との交流等を行っています。

有機農産物フェアでは、田植え、稻刈りを体験した都市の小学校、都市住民を招待し、安心安全な農産物の販売、おにぎり・だご汁等の販売を行い、竹細工・藁細工などの実演を行っています。抽選で野菜等もプレゼントしています。

安全な農産物を生産するとともに、下流にきれいな水を流すため、自分たちが環境を守る取り組みが重要であることから地域の水や環境に配慮した有機農産物の生産及び販売に取り組んでいます。

具体的には、土づくりから始まり、アガモ農法、鯉農法などに取り組み省力化を図るとともに、より安全な米の栽培技術を確立しました。化学農薬・化学肥料・化学合成資材を使わず堆肥などを用い、栽培の作物の種類を毎年増やしています。



平成4年には農村景観百選に選ばれ、
平成11年には日本棚田百選に認定された江里山地区

生産組合

佐賀県小城市 江里山棚田米 生産組合

江里山棚田米生産組合 代表 岡本 力男

彼岸花咲く、美しい江里山の棚田

江里山地区は、天山々系の南東、標高250mに位置する自然の美しい山間の集落です。ここに広がる棚田は約400枚あり、9月ともなれば、真っ赤に咲き乱れる彼岸花とたわわに実った黄金の稲穂とのコントラストが見られ、正に自然が織り成す造形美であります。

この地域は、

田んぼ10ha、畑12haの耕作面積を有し、畑ではブランドミカンとして、「天山みかん」を売り出しています。そのほか、蒟蒻芋の栽培も盛んで、伝統加工品として蒟蒻を販売しています。

特色ある棚田米づくりを目指して

江里山棚田米生産組合は、農家の収益を少しでも増加し、地域の活性化を図るうと、平成17年に正式に発足しました。

農家28戸で、60~70歳までが大部分をなし、団塊世代が農業にかかわっている状態です。

そして、地域活性化の取り組みについて話し合いを行った結果、特產品の棚田米を「江里山棚田米」というブランド品として地域の手で自己販売してはどうかとの意見を得ました。その手始めとして、棚田米の品質保持のため、低温冷蔵庫を購入し、食味の変わらない棚田米の保管販売に着手しました。

そして、より安心安全なお米として、佐賀県特別栽培米の生産に取り組みました。江里山の棚田の上流には人家がなく、生活排水が田んぼに流れ込むことがなく、標高が250m以上あるため、昼夜の温度差が大きく、食味の良いおいしい米になっています。けれども、消費者に満足してもらうには、棚田米というだけは不

け地域の活性化を図つてまいります。
【販売所】日之影町村おこし総合産業株式会社 TEL: 0982-87-2491



十分と考えました。

この県特別栽培とは、化学肥料・化学農薬を従来より5割以上削減した農産物として佐賀県が認証したもので、「より安全・安心な農産物」として消費者に提供するものです。わたしたちの米も、平成17年度から佐賀県特別栽培の認証を受け、特色ある棚田米づくりに取り組んできました。

さらなる品質向上と地域活性化へ

わが生産組合の米買い受け量は約6500kgです。近くの直売所と前述の2社で完売数量に達することができています。これから先は、良きブランド品として、土づくりや有機栽培など品質の向上に努めたいと思っています。

最後になりましたが、江里山地区では、毎年9月23日に「彼岸花祭り」を開催しています。棚田に一面に咲き乱れる彼岸花は他の地域では見られない自然の美しさを表現してくれます。江里山地区的観賞広場では、農産物や棚田米のほか、棚田米でつくったおにぎりや特産加工品の蒟蒻等を販売していますので、是非、おいでください。

【江里山棚田米の入手先】

小城市農産物直売所（ほたるの郷）

〒845-0003 佐賀県小城市小城町岩蔵81-8

TEL: 0952-72-5114

2kg入	1100円（税込・送料別）
5kg入	2700円（税込・送料別）

今後、山都町の有機農産物販売戦略として「山都町環境保全型農産物認証制度」の確立に向け準備を進めています。

組生產

鹿児島県湧水町

ଓ'ବିଜ୍ଞାନ

幸田棚田米生産組合

湧水町役場栗野庁舎農林課農政係
竹寄 博輝

組合員の活動内容としては、2ヶ月に1回の定例会と、植え付け前に土壤診断

湧水町は、鹿児島県の中央北端に位置し、総面積は144・33km²、北から東にかけて宮崎県えびの市、南は霧島市横川町、西は伊佐郡菱刈町及び薩摩郡さつま町、東は霧島市牧園町と接しています。

麓に接する中山間地帯の水田地帯に位置する幸田地区で活動しており、地区内に残る「棚田」の文化的価値の保持と、それを活かした特色ある付加価値の高い稲作「無化学肥料・減農薬栽培」の実践を目的に、平成8年度に地区内の農家6戸で設立し、現在4戸の農家が取り組んでいます。幸田という地区は、昔から味の良い米

味が良く、自然のままの棚田から生産される棚田の米の話は、消費者の方々の関心を得て、地区では「売れる米が作れる」という認識が高まり、生産組合が結成され、幸田棚田米の生産が本格的に始まりました。

この取り組みを行つたことでの利点としては、米価低迷の中、価格面で有利な販売ができるということ、棚田米のPR活動を生産者自ら行うことで、消費者から直接米に対する意見を収集できる、その意見を聞くことで、組合員の良質米生産に対する意識が高まるということが言えるのではないかと考えます。

田米の販路については、平成8年1月鹿児島市で開催された「むらおこし特產品求評・商談会」(鹿児島県商工会連合会主催)に栗野町役場(現在湧水町役場)、商工会、JAあいら栗野が出品し、バイヤーなど関係者から好評を得て、「栗野町幸田棚田米」のネーミングでブランド化。

鹿児島市内の大手デパートと30kg
玄米を12000円で取引される
ようになりました。

販売は基本的には取引先デパート、町内のみでの販売としています。また、棚田米と日本名水百選に

選ばれている丸池湧水の水、棚田で採取した土から分離した酵母菌を原料とした鹿児島県初の日本酒「幸寿」、棚田米を利用した焼酎「栗野しづく」も販売され

新潟県上越市安塚区樽田

(農)ながべ

(農)ながくら事務局 増野秀樹

(農) ながらの構成員は10名で、約10haの水稻の基幹作業を行っています。

田んぼは、ほとんど1~2反歩の面積で
標高200m前後です。品種は主にコシ
ヒカリ、あと酒米五百万石、もち米こが
ねもちです。

主な作業者の年齢は、70代2人、50～60代4人、そして私は事務局なのですが30代1人です。50～60代の方と私も含めて、みんな兼業です。そのため70代の2人に負って、こまごま頑張らうのでは、

人に頼ってしまう傾向があるのですが
「早く仕事を覚えて、楽にさせてくれ」と
とプレッシャーをかけられています。

昨年度までは、機械の共同利用のみを行っていましたが、今年度から作業も共同化して行うことにしました。まだ、育苗から田植えまで終わつた段階で、作業

の進め方、会計の方法など試行錯誤の状態です。

育苗はハウスの中で、プール育苗を行

湧水町幸田棚田米生産組合 組合長
山口和幸（やまぐちかずゆき）

TEL：0995・74・4565
販売価格 2kg入り1000円
5kg入り2500円(送料別)

しています

丸山千枚田の保全管理を手がける

二重県熊野市 (財)紀和町ふるさと公社

熊野市紀和総合支所 地域振興課 北裏 和樹

(財)紀和町ふるさと公社（以下、公社と表記）は、平成5年4月1日に旧三重県紀和町（現・熊野市）が100%出資を行い、設立された財團法人です。

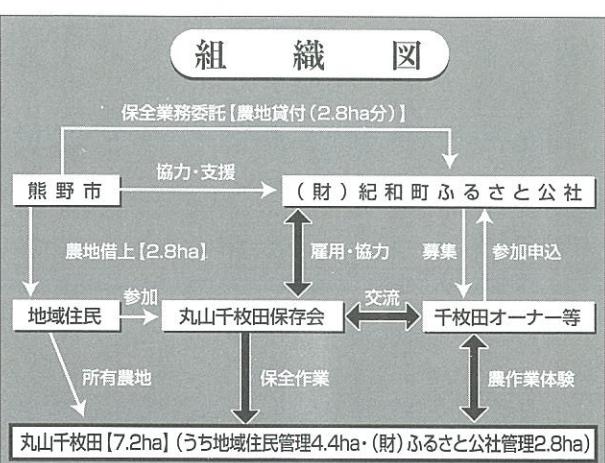
その目的は、丸山千枚田の保全事業をはじめとした「農耕文化の伝承」、「農林地の保全管理」また「営農指導の実施」、「農林産物の加工販売」、「雉の飼育放鳥・加工販売」さらには「都市との交流推進事業」等を行い、市民の福祉の向上と地域経済の発展に寄与しようというものです。設立のきっかけは、紀和町丸山地区にある千枚田の荒廃でした。丸山千枚田は、丸山地区の南西斜面、標高90～250m

に拓かれ、1601年の検地の記録によると、7町1反8畝、2240枚の水田があつたとされています。以降、開墾が続き、明治時代には約11町3反まで広がり、その後、昭和30年代までは、ほぼそのままの姿がとどめられていました。

しかし、高度経済成長期に入り、若年層の都市部への流出や減反政策、また地区の過疎化・高齢化に伴う過重な農作業への労働力不足が重なり、徐々に耕作放棄が進んでいきました。そして、平成初期には、約4.6ha、530枚にまで減少。

そんななか、「先祖から受け継いだ千枚田を復元したい」という地元住民の熱意と「荒れる一方の貴重な地域資源である千枚田を復元することにより地域振興を図り、地域活性化につなげていきたい」と考える市との思惑が一致し、「財團法人紀和町ふるさと公社」が誕生したのです。

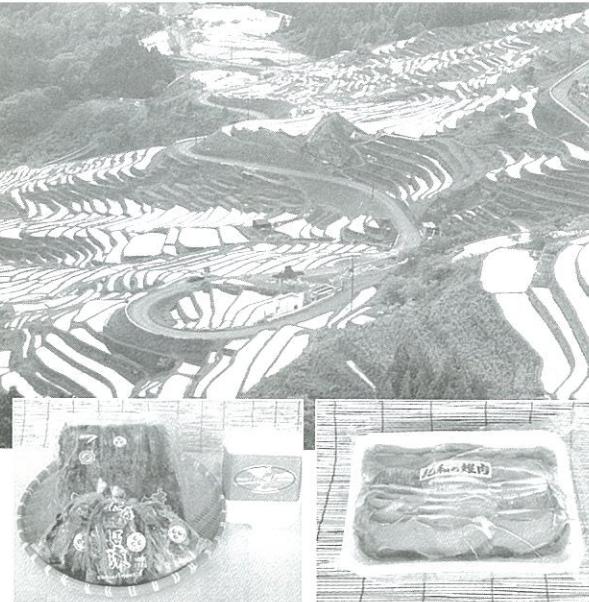
設立と同じ平成5年の8月には、丸山地区全31戸で構成する「丸山千枚田保存会」が発足し、市・保存会・公社という3者による連携体制が整えられました。平成5年の10月には、保存会を中心となつて、千枚田の復元がはじまり、平成9年には約7.2ha、1340枚にまで復田



ながくらが運営するそば屋「小さな空」

務局も担当し、千枚田のなかに建つ千枚田莊の運営や、千枚田オートキャンプ場の管理運営も行っています。そのほか、ふるさと特産物加工所にはパート職員が数名おり、地域での雇用にもつながっています。また公社は、千枚田オーナー制度の事務局も担当し、千枚田のなかに建つ千枚田莊の運営や、千枚田オートキャンプ場の管理運営も行っています。そのほか、ふるさと特産物加工所にはパート職員が数名おり、地域での雇用にもつながっています。今年度は、新たに新商品「熊野地どり」の生産を開始する予定で、その評判や売れ行きが楽しみでもあります。ぜひ、丸山千枚田へ足を運び、公社の取り組みを肌で感じていただくとともに、千枚田莊に宿泊して特産品などもご賞味いただければと思います。皆さまのお越しを心からお待ちしております。

また、先日田植えの苗運びをしましたが、初めて通る狭い農道だったもので、2回も脱輪させてしまい、すっかり田植えの足を引っ張ってしまいました。私も、少しづつ作業を覚えて世代交代を促進できれば、と思っています。



生産組合

棚田ファンクラブも設立。「農樂」を目指す

岡山県久米南町くめなんちょう

北庄中央棚田天然米生産組合組合長 北庄中央棚田天然米生産組合

北庄中央棚田天然米生産組合組合長 西河 明夫



*1 サイフォン：谷などの高低差を利用して、圧力で水を下から上へ上げる水利施設

昔ながらの種子消毒（塩水選・温湯）と有機肥料だけで栽培し、天日架干収穫に拘った低農薬米（コシヒカリ）です。殆ど無農薬状態で栽培されますが、周囲の圃場環境と1回除草剤を使用する事から、有機減農薬（特別栽培米）として取組んでいます。そして、「今摺米」は、「道の駅・くめなん」又は、JAつやまを通じて直接契約購入する事が出来ます。

第2に、地元小学校

北庄中央棚田天然米生産組合は、岡山県のほぼ中央に位置する久米南町の最北端に位置し、300m～400mにわたり棚田が開けた地域にあります。大正末期に結成された耕地整理組合による開田・溜池の増改築、サイフォンを原理とした配水工事等先人達の偉業を財産に、今も

「耕して天に至る」ふるさとの原風景を維持していることから、『棚田天然米産業推進事業』と『棚田地域営農条件等整備事業』推進地域の認定を受け、補助事業推進を目的に北庄中央地区農家35戸の内25戸の賛同を得て発足し、現在18戸、34名の組合員で活動し、3つの特徴があります。

第1に、栽培に拘ったブランド米『今摺米』の栽培です。『今摺米』は、組合員1戸あたり3a以上の圃場で、

昔ながらの種子消毒（塩水選・温湯）と有機肥料だけで栽培し、天日架干収穫に拘った低農薬米（コシヒカリ）です。殆ど無農薬状態で栽培されますが、周囲の圃場環境と1回除草剤を使用する事から、有機減農薬（特別栽培米）として取組んでいます。

そして、「今摺米」は、「道の駅・くめなん」又は、JAつやまを通じて直接契約購入する事が出来ます。

第2に、地元小学校

の総合学習の一環として開校される『田んぼの学校』です。設立当時より、地元小学生に農作業の体験を通して、『水と土』にふれあうことにより、『食と農』の大切さを肌で感じ、農村環境に対する豊かな感性を育む事を目的に、田植（5月）と稲刈（9月）交流を基軸とし、学年毎に学習内容に合う棚田の財産（物・知恵等）を有効活用する田んぼの学校を毎年開校しています。

第3に、『棚田ファンクラブ』の設立です。平成11年7月、日本一面積の広い棚田地区として『棚田百選』の認定と共に、当地区を訪れる棚田愛好写真家を中心に、棚田地区として『棚田百選』の認定と共に、棚田の状況等）を行う為に、有料会員で構成されるファンクラブを平成17年度より新たに設立し、現在20の個人・クラブが登録しています。会員から頂いた写真を棚田写真展示館に展示し、会員相互の交流と四季の移ろいが分る様にしています。

3つの特徴を基本に、棚田が直面している高齢化・重労働・生産性の悪い『苦農』から、遊び心を大切にし、都市との交流等による楽しみのある『農樂』による『元気な高齢者の集う集落』を目指しています。

私たちの組合は、全国棚田百選に選ばれた「岳の棚田」地域の中にあり、標高が約400mで1枚の水田面積は平均で4aと町の平均面積の5分の1程しかありません。また、農業用水の全てが、ため池や出水のみに頼っており、雨が降らないと十分な用水の確保が出来ず、田植えの準備も出来ないほど生産性が非常に低い地域といえます。

しかし、棚田の上流には人家が無く、そのおかげで今では珍しいミズカマキリやホウネンエビ等を見る事ができます。また、昨年は蛍が10月まで見ることができました。私達はこの環境の良さを米作りに生かせないものかと平成16年4月に組合を発足し、徐々に組合員も増え現在7名の組合員が活動しています。

活動としては、年2回水田環境調査を環境鑑定士や福岡、県内の消費者とともに実施し、約40種類の水田生物を確認することができます。これにより水田環境特Aの地区認定を受け、「環境特A棚田米」として消費者の方々へ安全な米を届けています。これからもこの名に恥じないようになりますため、佐賀県特別栽培米の

栽培組合 地域の特性を生かして

佐賀県有田町

岳特別栽培組合

私たちの組合は、全国棚田百選に選ばれた「岳の棚田」地域の中にあり、標高が約400mで1枚の水田面積は平均で4aと町の平均面積の5分の1程しかありません。また、農業用水の全てが、ため池や出水のみに頼っており、雨が降らないと十分な用水の確保が出来ず、田植えの準備も出来ないほど生産性が非常に低い地域といえます。

しかし、棚田の上流には人家が無く、そのおかげで今では珍しいミズカマキリやホウネンエビ等を見る事ができます。また、昨年は蛍が10月まで見ることができました。私達はこの環境の良さを米作りに生かせないものかと平成16年4月に組合を発足し、徐々に組合員も増え現在7名の組合員が活動しています。

活動としては、年2回水田環境調査を環境鑑定士や福岡、県内の消費者とともに実施し、約40種類の水田生物を確認することができます。これにより水田環境特Aの地区認定を受け、「環境特A棚田米」として消費者の方々へ安全な米を届けています。これからもこの名に恥じないようになりますため、佐賀県特別栽培米の



農業組合

福岡県うきは市小塩地区——ホタルの里営農組合

こじあわせ市役所

小塩川沿いの急峻な地形、小塩地区

小塩地区は、福岡県うきは市の東南部に位置する山間地区で、13の集落により構成されています。小塩川沿いの急峻な地形の中、経営耕作面積は27.2haで、その内訳は水田10.1ha、畑14ha、樹園地1.5haと樹園地の割合が高くなっています。

より、37haのほ場整備が実施され、うきは市における山村地域の中では唯一基盤整備がなされており、ほかに“ふるさと農道”や“ホタルの里広場”など多方面で環境基盤整備が進んでいます。

7haと樹園地の割合が高くなっています。総戸数は245戸で、農家戸数は19戸。専業農家は26戸と兼業化率は比較的高く、高齢者人口比率は32%で、市平均の24%よりやや高い状況です。農業は、水稻を基幹作物として柿、桃、キウイな

どの果樹農業が中心となっています。他方で、2000年では農家の3分の1にあたる66戸が耕作放棄地を有しており、それは18haにも達しています。

農業組合を設立

地区で1集落協定を締結
2000年の中山間地域等直接支払交付金制度の発足により、他地区では集落単位に協定締結を実施していく中、小塩地区として「地区をまとめて一つの協定を結べば、事務処理も一つで済み、集落も参加しやすくなるし、脱落者を出さず
に地域一体となつて取り組むべき」という結論から、小塩地区で1集落協定を締結しました。

年にかけて「福岡県中山間地域農村活性化総合整備事業」に

交付金の配分方法については、農家受け取り50%、各集落40%とし、共同取り組み活動分の一部を「攻め」の活動に費やすこととして、本部(事務局)に10%の

△連絡先▽うきは市役所 農林・
光課 山村振興係 松尾正和
TEL：0943・77・21111

「生産から販売まで三元化」した

その時期になりましたが、5カ月後
までの要因ではないかと思っています。
昨年は、田植え後の長雨と低温によ
り、耕田米の直接販売問い合わせ先
にない不作の年でした。今年も、
並色の稻穂が棚田を埋め尽くす景色
が描きながら、今草払いに精を出し
ます。（岳特別栽培組合 前田裕男）

* 2 環境鑑定土：水田環境鑑定土。米・食味鑑定士協会が実施する検定合格者に付与する資格。水田環境鑑定土が水質や生き物等を調査し、環境的に優れた田んぼをA、特に優れたものを特Aと判定する。



区域を限定し米作りを行っていきます。

ふるの里の棚田を「守る運動」 熊本県球磨村「松谷棚田」

花いっぽいボランティア運動・ヤギ放牧実証モデル事業



九州山地の奥深く球磨焼酎のふるさと、熊本県球磨村に日本の山村の原風景を今に残す日本の棚田百選の一「松谷棚田」があります。松谷棚田は標高150mから250mに位置し、扇状に広がる農地面積約10haの棚田で、そこで採れる棚田米はその味の良さで、今、静かなブームとなっています。

先人たちが額に汗して築き上げてきた努力の結晶「棚田」。それは代々守り受け継がれてきた私たちの魂であり、集落の原点でもあります。それは、球磨村の文化とも言えるでしょう。

しかし、棚田は今や経済合理性の観点から農業とは無縁の域にあるといつても過言ではなく、棚田における稻作に陰りが差しかけています。

松谷棚田でも4haが遊休農地となつており、私たちの精神の支えとなる棚田が荒廃していく姿を見ることはとても悲しいことです。

そこで、松谷棚田のある松谷地区では、後継者・担い手不足

と観を守るためにボランティアによる「花いっぽい運動」を計画、6月3日(日)に村内外から呼びかけに応じた約230名が松谷

棚田に集まり、遊休農地の草刈やヒマワリの播種に汗を流しました。

この制度の特徴は、田んぼが小さく大きさも違うため、オーナーはマイ田んぼを選びます

が、米作りは全てのオーナー田を会員全員と愛耕会の皆さんで共同で行います。また、収穫が第一目的ではなく千枚田の景観を保全に稻作が必要であることを理解している方が会員となつておられます。

さて、白米千枚田は日本海にそぐ急傾斜地に小さな田が連なり、日本の原風景を想わせる景観のすばらしい棚田です。

しかし、田んぼが小さいため機械を使えず、高齢化や後継者不足の地元だけでは稻作が困難となつており、多くのボランティアの支援を受けながら稻作が続けられています。今後も、耕作放棄の田が一層増えていくことは避けられない状況にあるなか、昨年に千枚田の景観を守りたいと近隣の農家の方で「白米千枚田愛耕会」が組織されたことに伴い、ようやく白米千枚田でも全国的に棚田保全に有効なオーナー制度を管理・指導していただけの団体が誕生し、本年から制度の導入を図ることが出来、稻作を継続していく見通しがつきました。

現在は、オーナー会員45名(うち首都圏27名)、トラスト会員25名となっております。

4月1日の田起こし、5月12日には田植えを無事終えることができました。参加された皆さんには、作業の参加に満足のコメントをいただいております。

(輪島市産業部観光課 山下博之)

輪島市白米千枚田でオーナー制度スタート!

しょね
輪島市白米千枚田

3月25日に能登半島地震が発生し、石川県輪島市に甚大な被害を受け、現在は全国から多大きなご支援を賜りながら復興に尽力しているところです。しかしここ、白米千枚田は幸いにも被害を受けませんでした。

さて、白米千枚田は日本海にそぐ急傾斜地に小さな田が連なり、日本の原風景を想わせる景観のすばらしい棚田です。

しかし、田んぼが小さいため機械を使えず、高齢化や後継者不足の地元だけでは稻作が困難となつており、多くのボランティアの支援を受けながら稻作が続けられています。今後も、耕作放棄の田が一層増えていくことは避けられない状況にあるなか、昨年に千枚田の景観を守りたいと近隣の農家の方で「白米千枚田愛耕会」が組織されたことに伴い、ようやく白米千枚田でも全国的に棚田保全に有効なオーナー制度を管理・指導していただけの団体が誕生し、本年から制度の導入を図ることが出来、稻作を継続していく見通しがつきました。

現在は、オーナー会員45名(うち首都圏27名)、トラスト会員25名となっております。

4月1日の田起こし、5月12日には田植えを無事終えることができました。参加された皆さんには、作業の参加に満足のコメントをいただいております。

(輪島市産業部観光課 山下博之)

ナードを面積単位ではなく、オーナーはマイ田んぼを選びます

が、米作りは全てのオーナー田を会員全員と愛耕会の皆さんで共同で行います。また、収穫が第一目的ではなく千枚田の景観を保全に稻作が必要であることを理解している方が会員となつておられます。

さて、白米千枚田は日本海にそぐ急傾斜地に小さな田が連なり、日本の原風景を想わせる景観のすばらしい棚田です。

しかし、田んぼが小さいため機械を使えず、高齢化や後継者不足の地元だけでは稻作が困難となつており、多くのボランティアの支援を受けながら稻作が続けられています。今後も、耕作放棄の田が一層増えていくことは避けられない状況にあるなか、昨年に千枚田の景観を守りたいと近隣の農家の方で「白米千枚田愛耕会」が組織されたことに伴い、ようやく白米千枚田でも全国的に棚田保全に有効なオーナー制度を管理・指導していただけの団体が誕生し、本年から制度の導入を図ることが出来、稻作を継続していく見通しがつきました。

現在は、オーナー会員45名(うち首都圏27名)、トラスト会員25名となっております。

4月1日の田起こし、5月12日には田植えを無事終えることができました。参加された皆さんには、作業の参加に満足のコメントをいただいております。

(輪島市産業部観光課 山下博之)

現在は、オーナー会員45名(うち首都圏27名)、トラスト会員25名となっております。

4月1日の田起こし、5月12日には田植えを無事終えることができました。参加された皆さんには、作業の参加に満足のコメントをいただいております。

(輪島市産業部観光課 山下博之)

した。同時に雑草を食べるヤギの放牧を行い、周囲に柵を設置しました。

都市住民にも広く呼びかけた「花いっぱい運動」には、鹿児島、熊本、八代市からの家族連れのほか、地元住民、緑の少年団、少年野球チームなど多くの参加がありました。児童生徒や家族連れは棚田に一列に並び、移植

ごとを使って遊休農地50aにヒマワリの種まき、一般参加者はマワリの種まき、一般参加者は草刈機で棚田の石垣の除草作業やヤギを放牧するために50aにフェンス柵を張り巡らし、間伐材を利用したヤギ小屋の建築に汗を流しました。

ヤギの放牧は今回が初めての試みで、球磨郡内の特別養護老人ホームからつがいの2頭を無償で譲り受けました。急な段差の棚田に

ヤギを放して茂った雑草を食べもらい、景観保全に繋げようという試みです。

作業の後は、地元の婦人会が用意した棚田米のおにぎり、鹿肉のバーべキュー、煮しめなどの郷土料理に舌鼓を打ちながら交流を深めていました。

(球磨村役場産業振興課 高永 幸夫)

静岡県では韓国の「農村愛」^{*}社一村運動」をモデルとして、農村と企業・団体が、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を活かし、双方にメリットのある協働活動の実践を目指す「一社一村しずおか運動」に取り組んでいます。

「人手がほしい」「交流を増やしたい」「特產品を開発したい」などの農村の要望と「社会貢献したい」「社員の福利厚生や研修に役立てたい」「ビジネスに活かしたい」という企業の要望を結び、継続的なパートナーシップ関係の構築を目指しています。

これまでに、棚田や里山の保全、耕作放棄田での菜の花や大豆栽培などに取り組んだ3社と5農村の活動を運動として知事が認定しました。

3つの地域と棚田保全活動を行っているアストラゼネカ社では、「地域に貢献でき、社員も学べる。今後も継続していきたい」と手応えを感じています。地域の方も共に汗を流し、「棚田の存在と保全の苦労を知つてもらえる交流ができる良かつた」と

喜びの声が上がっています。

新たな動きとして、静岡大学農学部が農業体験を通して環境保全と地域貢献の

あり方を学ぶプログラムの実施に当たり、フィールドとなる農山村集落と協働活動を行つ計画があります。集落は茶やワサビ、シイタケなどの農作業支援と集落環境の維持管理に共に取り組むパートナーを求め、大学は学生を派遣することで地域の課題解決に貢献したいと、両者の活動方が一致しました。

このように、一社とは企業に限らず、教育機関や学生サークル、NPO団体等、幅広い団体との連携が考えられます。県では農村の要望を踏まえ、企業の

Topics

企業と農村が手をつなぐ! 「一社一村しずおか運動」やります



松崎町石部地区とアストラゼネカ社

農山村訪問の支援やホームページ等による広報活動を積極的に行い、運動の一層の浸透を図って行きたいと考えています。
(静岡県建設部農地局農地計画室 事業調整スタッフ 平井文博)

*「農村愛一社一村運動」とは、2004年から韓国が国を挙げて実施し、既に7000の企業が参加して活動を広げ、農村地域の活性化対策として注目を集めている運動です。

会長を退任します

愛知県新城市長

穂積 亮次

今、棚田は田植も終わり、満面の水が張られ「日本の農業の原風景」と言われる美しさをかもし出しています。

昨年、宮崎県日南市で開催された第12回全国棚

田（千枚田）サミットでは、「棚田・未来への継承～人

の継が棚田を創る～」をテーマに約1500の方々が参加され、盛会で有

意義なサミットでした。

また、地元の小・中学生・地域の方々による、心温まるおもてなしに感動するとともに、新たな「人の継」が生まれたことだと思います。

これもひとえに日南市長様をはじめ実行委員各位、地域住民の皆様方のご努力の賜物と心より厚くお礼申し上げます。

さて、本協議会も12年が経過し、棚田の保全活動を通して、中山間地域の振興と繁栄を目指す制度である「中山間地域等直接支払制度」をはじめとする各種制度・事業の創設を見ることができました。これらの制度・事業を今後も継続して行くことが、先人たちの汗と涙で創り上げた棚田を守ることとなり、さらには、国土の保全、そして良好な景観の形成に活かされてまいります。共同宣言にもありますように「緑と水を守りながら棚田が教育や環境において日本人の心の拠り所であり続ける。」あるべき姿へと導く「道しるべ」と考えてています。

今後も、全国棚田（千枚田）連絡協議会の一層の活動連携により、人と自然が共存する農山村の維持、活性化が図られますようご期待申し上げる次第でございます。

最後になりますが、全国の会員各位、棚田保全にご理解とご協力をいただきました皆様、また、ご支援をいただきました国・県を始め各団体の皆様に衷心より感謝申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

会長に就任します

宮崎県日南市長

谷口 義幸

今年度、会長を務めさせていただきます日南市長の谷口でございます。

去る4月17日、副会長の伊藤一長長崎市長が暴力団幹部の銃撃を受けお亡くなりになるという許し難い事件が起きました。ご冥福をお祈り致しますと共に、2度とこのようなことが起きないよう強く望むものであります。

昨年、日南市で開催しました第12回全国棚田（千枚田）サミットでは、各地から多くの皆様に「坂元棚田」にお越しいただき、お陰をもちまして盛会のうちに終了しましたことを、あらためて、心から厚くお礼申し上げます。

高知県梼原町で産声を上げたサミットは、今年で13回を迎えることになりました。この間、国際化の進展など農業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、農林水産省においては、経済効率重視から国土の保全、水源の涵養、伝統・文化の継承といった農業・農村の持つ多面的機能を重視する施策へと大きく舵を切られたところです。その取り組みとして「中山間地域等直接支払制度」、「棚田等緊急保全対策事業」、「ふるさと水と土ふれあい事業」等の施策が創設されたところです。そうした中から、地域で消滅されそうになつた棚田を含め、中山間地域が元気を取り戻そうと立ち上がることができました。

これは、棚田に寄せる皆様の熱い思いが広く共感を呼び、国や関係機関のご理解とご支援を頂いた成果であり、また、それに呼応する地元の取り組みの賜ものと確信しております。

しかし、依然として棚田の荒廃は進行し、一方では、国・自治体ともに極めて厳しい財政状況を背景として当協議会の自治体の会員数は減少傾向にあります。是非、つむぎ合わせていただいた全国の「継」を今一度、あの梼原町からのうねりを思い起こしていただき、協議会の「継」を固きものにそれぞれが奮起していただくことをお願い致します。

そして、栃木県茂木町で開催されます第13回全国棚田（千枚田）サミットで、それぞれの活動や情報の交流と棚田保全に向けた新たな決意ができることを祈念申し上げ、会長就任のごあいさつとさせていただきます。

皆様ご存知のとおり、伊藤前

市長が、去る4月17日選挙戦のさなか、暴漢に銃撃され翌18日にご逝去されました。ご遺族の方々の心中を察すると断腸の思

いであり、永年にわたり郷土「長崎」の発展に貢献され、

市民にも親しみある市長として愛された人を、

このように理不尽な形で失い、今でも激しい憤りを禁じ得ません。

今回このような形でご報告させていただくことになり、本当に残念な気持ちでいっぱいです。また、本協議会の皆様方から、たゞご芳志に対し、この場をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。

伊藤前市長は、核兵器の廃絶を世界に訴え、世界恒久平和の実現に向け努力を続けられたほか、数多くの業績を残されました。特に農業に対する思い入れは深く、近年の近隣7町との合併を契機に、平成17年度を「農水産・地産地消元年」と位置づけ、地産地消の推進により消費の拡大を図るなど、農水産業の発展にも大きな成果を上げられまし

た。また、多くの中山間地域を抱えている長崎市の農業の課題

や、合併地域の特色ある地域資源や産業の活用に精力的に取り組んで来られました。全国棚田

(千枚田)サミットについても、

合併地区である旧外海町の地域資源をより多くの方々に見てもらおうと誘致を決断され、平成20年の開催地として本協議会からご承認いただきましたところです。

私も、伊藤前市長の意を引き継ぎ、「第14回全国棚田(千枚田)サミット」へ、全国の皆様を万全の体制でお迎えしたいと思っております。来年は、本市と雲仙市の共同開催となります。皆様に来て顶ける意義深いサミットが開催できるよう、被爆都市、また観光都市として知られた長崎市と、普賢岳、また温泉地として有数の雲仙

(千枚田)サミットでは、予算縮減を念頭におき、各方面の方々のご支援を頂き、なんとかその目的については達成し、サミットのあり方についてひとつの方向性をお示しました。良い意味で今後のサミットに繋げなければと考えています。また、日南市民の「おもてなし」の気持ちを前面に出し、特に次代を担う子供達にスポットを当て、全国の皆様と交流できたことは、棚田を保全する若き後継者にとって大きな誇りになつたのではないかと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

市が、来年秋の開催を目指し、共に全力を挙げて取り組んでまいりたいと思いますので、今後とも皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願ひいたします。

平成20年 棚田サミット開催地——長崎市からの報告

田上 富久
長崎県長崎市長

事務局ニュース

事務局、宮崎県日南市からのお知らせコーナーです。

サミットで協議会として政策提言をしていくこととしました。政策提言については、サミット以降、農林水産省に提示していくように計画しています。ぜひ、会員の皆さん一人でも多くサミットに参加し、中山間地域の展望について話し合い、交流しだければと思います。

末尾になりますが、事務局その提言の輪の中に入っていただければと思いません。今年一年間もまた、棚田保全に向かって重責を担うことになりますが、会員の皆様のご協力無くしては、努められるものではありません。どんなことでも

保全に向け重責を担うことになりますが、会員の皆様のご協力無くしては、努められるものではありません。どんなことでも

あります。ただし、今年一年間もまた、棚田保全の構造です。事務局を棚田保全のネットワークの中継点としてご活用頂き、会員相互の情報の共有と交流にて協力を願い致します。

全国水土里ネット・都道府県連絡協議会の事務局を務めさせていただきます「宮崎県日南市(農林水産課)」です。どうぞよろしくお願いいたします。



日南市坂元棚田

書籍紹介

『農村の生きものを大切にする』水田生態工学入門』水谷正二編著

人が創り出した二次的自然である水田は、たくさんの生きもの育む場でもある。生きものを大切にする農村環境とは?――水田をめぐる多様な生きものの生態や生態系を明らかにし、それを保全・修復していくためのソフトとハードの技術の両面をまとめた一冊。農村環境を考え、今後のあるべき環境基盤づくりを具体的に提案している。

農文協刊。税込2900円

■「ふるさとの田んぼと水」
子ども絵画展2007
作品募集

■ 情報 & BOOKS

第13回全国棚田(千枚田)サミットへ行こう!!

2007年8月24日(金)~8月25日(土) 栃木県茂木町開催

テーマ

美しい土の里から~棚田から明日への提言~

みんなを
誘って
出かけま
せんか?

第1日目
8月24日(土)

時 間	内 容	会 場
8:30~ 9:10	全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会	
9:20~10:30	全国棚田(千枚田)連絡協議会総会・首長等会議	
10:40~12:00	ツインリンクもてぎ視察	
12:00~12:50	昼 食	
13:00~13:40	オープニングセレモニー 開会式	
13:40~14:20	基調講演 福田富一栃木県知事	
15:20~16:35	県内の事例発表 ①宇都宮白楊高校生徒による棚田保全の取組 ②茂木町むらづくりと棚田オーナー制度 ③那須烏山市国見地区の棚田保全活動	ホテルツインリンク
18:00~20:00	全体交流会	

第2日目
8月25日(日)

時 間	内 容	会 場
8:00~11:00	現地見学会(選択制) Aコース:ゆずの里→石畑→国見 Bコース:石畑→国見→美土里館	茂木町内
11:10~11:50	閉会式 共同宣言	道の駅もてぎ
11:50~	昼 食	

※ノーネクタイ、歩きやすい服装でお越しください。

問い合わせ先

第13回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会事務局(茂木町役場農林課) TEL:0285-63-5634
FAX:0285-63-5600



茂木町は、栃木県の南東部に位置するハ溝山系に囲まれた自然豊かな町です。全国棚田百選に選ばれた「石畑」(写真)などの美しい農村風景が広がり、各種オーナー制度など都市農村交流が盛んに行われています。その茂木町を会場として、第13回全国棚田(千枚田)サミットが開催されます。1日目の栃木県内の事例発表では、宇都宮白楊高校生徒の棚田保全活動、茂木町のむらづくりとオーナー制を通じた都市農村交流の取り組み、那須烏山市国見地区の棚田

保全活動を発表していただき、地域住民と都市住民、更には学校やNPOなど様々な組織が連携して活動している事例を紹介いたします。夜の交流会は、地場食材を使った料理とおいしいお酒で、皆さまを温かくおもてなしいたします。

2日目の現地見学では、全国棚田百選に選ばれた「茂木町・石畑の棚田」と「那須烏山市・国見の棚田」の2ヶ所を見学す

る欲張りなプランをご用意しました。更に選択制で、茂木町のオーナー制の元祖「ゆずの里」と地域の有機資源から優良な肥料を生産する「有機物リサイクルセンター美土里館」を見学していくだきます。

夏の暑い2日間、茂木町ならではの「盛り沢山」の内容で歓迎いたしますので、皆さまぜひ参加ください。(茂木町役場農林課 伊藤 崇)

2007
MOTEGI SUMMIT



「大山千枚田 8年目の浮夢」

「へえ。素晴らしいですね!」「ええ、続いてくれるといいんだけど…(笑い)」

今年の田植えはイイお天気でよかったです!さあ、オーナーさん達の様子をカメラに収めてこようっと。エッサ、ホツサと田んぼを歩く。

「あらー、○○さん、こんには植えですね!」

「そう、何しろオーナー制度の始まりからですものね。」

「でも、今日は田んぼに入らないのですか?」

「ええ、田んぼはもう予供たち夫婦にお任せよ!私はお昼の準備だけよ。」

今年の田植えはイイお天気でよかったです!さあ、オーナーさん達の様子をカメラに収めてこようっと。エッサ、ホツサと田んぼを歩く。

「あらー、○○さんはもう8回目の田んぼを歩く。

「あらー、○○さん、こんには植えですね!」

「そう、何しろオーナー制度の始まりからですものね。」

「でも、今日は田んぼに入らないのですか?」

「ええ、田んぼはもう予供たち夫婦にお任せよ!私はお昼の準備だけよ。」

ハアー、それにしてもここ数年、いつも事務所でバタバタしてて、オーナーさんの田植えを回って見られなかつたのだけれど、久し振りにこうして歩いてみれば、まるで浦島太郎、へエー!ハアー?の連発。老若男女の賑わいとはこのことです。本当に若い人が増えた!子供たちも増えた。赤ん坊も生まれ親子3代のところも多い。命の賑わうこいつも5年生でいっぱいのつもりですよ。」

「そうですよ。初めて田んぼに入ったのが5才の時だったかな。もう5年も経つんですね!」

「そうですね。初めて田んぼに入ったのが5才の時だったかな。もう5年も経つんですね!」

愛知県新城市四谷千枚田 れんこく 連谷お助け隊



「連谷サミットお助け隊」は第11回全国棚田(千枚田)サミット開催にあたり平成16年7月3日にサミットサポート隊として発足した。発足の経緯は、この地で開催されるサミットに全国から1000人規模の棚田関係者が訪れる。「こんなこたあ、後にも先にも、ないことだ、訪れる人に粗相があっちゃあいかん」と地元の若い衆23人が立ち上がり「連谷サミットお助け隊」を結成、沿道の除伐や千枚田の景観整備など労力を供給した。

そして、サミット当日の地元対応では黒子に徹し若いアイデアを満載、訪れた方達に大変喜んでいただくなど、サミット成功に導いた。

その後も、その活力を地元の活性化にと「連谷お助け隊」に名称を変え、様々な活動を通して地域に貢献している。その一つとして6月2日には昨年に続き千枚田の景観道や田んぼの畦に1200本のロウソクを灯し幽玄な世界を醸し出す「みんなで灯そう千枚田」を行うなど、お助けに余念がない。

その活動は閣達で素早い。「ああだ、こうだ言っとるより、やっちゃん」と、わいわいがあがあ言っとるがリーダー(林 義明)の一聲で実行に移してしまう素晴らしい団結力をもった頼もしい仲間たちだ。

(鞍掛山麓千枚田保存会 理事 小山舜二)

会員募集中

新しく会員になったみなさま

<自治体会員> 熊本県 芦北町

<個人正会員> 松本 克夫(神奈川県)

<個人賛助会員> 保田 祐子(大分県)
清藤奈津子(岐阜県)

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

宮崎県日南市 農林水産課

〒887-8585宮崎県日南市中央通1丁目1番地1

TEL:0987-31-1132(直)

FAX:0987-24-0080

協議会HP:<http://www.yukidarama.or.jp/tanada/>

編集後記

今号からカラーページが入りました。美しい棚田をカラーで、という要望が発行当時からありました。しかし、年3回の発行とすることで、12年目にして実現できました。わたしがライステラスの企画編集を担当するようになって、10年が過ぎました。10年も続くと毎回、特集等内容の企画を考えるのは至難の業ともなってきますが、会員のみなさまにご協力をいただきながら、おかげさまでここまでやってこられました。みなさまの活動を見続けてさせていただいて10年。棚田地域をはじめ農村がこの10年で元気になったを感じています。3月末に第2子を出産した関係で、しばらくは取材でお伺いすることもむずかしい状況ですが、これからもみなさんの地域の熱い情報をていねいに紹介していきたいと思っています。石井里津子

栃木県茂木町小深

岩の作棚田へようこそ



棚田ギャラリー 棚田看板いろいろ

前号のライステラスでも紹介した栃木県立宇都宮白楊高校が作成した看板を紹介します。一つは茂木町小深地区「岩の作の棚田」の測量図(上)。さらに、NPO法人棚田ネットワークと共に調査した「トンボカレンダー」に基づいた看板(下)。測量図の看板は、棚田の入り口に設置され、道なりに斜面を登っていくと、棚田を見下ろせる場所に「トンボカレンダー」看板があります。小深地区的岩の作は、静かな山あいの棚田ですが、こうした看板があることで、高校生やNPOの応援があり、開かれた場所であることも伝わってきます。



栃木県「残したい 棚田21」

栃木県では平成14年3月、21世紀に残すべき優良な棚田を「残したい栃木の棚田21」として選定し、28地域の棚田を認定しました。認定した棚田には認定杭を設置し、平成16年には棚田の保全啓発をモデル的に図るため、県産のスギ材を利用した看板を2カ所(矢板市・兵庫畑の棚田、茂木町:後田(竹原)の棚田)設置し、以後順次設置しています。看板の内容は、所在地・面積・棚田の枚数・関係農家戸数を必須とし、その他に各地の紹介や注意事項等を掲載しています。

さらに「残したい栃木の棚田21」を紹介する「栃木の棚田めぐり」を作成し、棚田の魅力や多面的機能をより多くの方々に理解していただけるように努めています。また、棚田の保全や地域の活性化に向けて、ワークショップ等の開催や農作業体験・グラウンドワーク活動の支援等を随時実施しています。写真で示した矢板市兵庫畑では、平成15年度から棚田オーナー制度を導入し、都市住民に対して中山間地域への理解をいただきながら、地元住民との交流を深めています。(栃木県農村振興課 市川貴大)

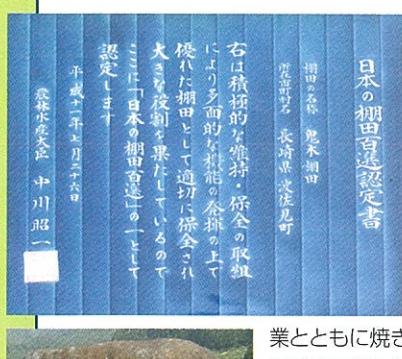
長崎県波佐見町鬼木棚田 「日本の棚田百選認定証」

波佐見町は、400年の歴史を誇る焼きものの産地で、町の随所に陶磁器による案内板や表示板が設置しています。鬼木棚田を見下す展望敷地内には、記念碑とともに陶板でできた棚田百選認定証が飾られています。文字を白抜きにし、背景を青色の絵の具(吳須)で塗りつぶす「ダミ」といわれる独特の技法で作られていて、農業とともに焼きものの町として発展してきた波佐見町を反映したものとなっています。

「鬼木棚田の案内板」

県道端の鬼木棚田への入り口に立てられた案内板(下)は、鬼木の地元有志による手づくり看板。個々人がもっていた板材や丸太を持ち寄り、文字を彫り、防腐剤を塗布し、それぞれの技術を加えとても素

人作とは思えない出来上がりとなっています。あわせて、地区内にある農産物加工所のPRも忘れていません。(波佐見町農林課 前川芳徳)



千葉県鴨川市大山千枚田



大山千枚田には棚田写真家宣言なる小さな看板があります。これは「NPO法人棚田ネットワーク」さんが地域の人たちとカメラマンがうまくやつていけるよう作成し、大山千枚田の看板の脇に立てました。呼びかけ人は写真家の英伸三氏、ジョンニ・ハイマス氏、今森光彦氏、水田稔氏の4名です。

内容は、「1.地元の人に挨拶します。2.畦などへの立ち入りは許可を頂畦などを壊さないようにします。3.農作業の邪魔になるようなことはしません。4.勝手に農機具の移動やポーズを強要したりしません」。

考えてみればごく当たり前のマナーではあります。同じ写真に係わる人たちができる限り地域の人たちに敬意を払い、共に活動をして行こうという姿勢の現われだと思います。この看板のおかげか、昔よりずっとマナーが良くなつたと思います。(大山千枚田理事長 石田三示)

